

ロッテ捜査でペール脱ぐシン・ドンビンの日本人側近 3 人

記事の承認 2016.07.07 18:09:32

- シン・ドンビンの「ワンリーダー」登板に決定的な役割...ロッテ裏金捜査の核心人物として浮上

検察のロッテグループ裏金捜査で日本人経営陣が浮上している。シン・ドンビンロッテグループ会長は、日本人「側近 3 人」を置いているが佃孝之日本ロッテホールディングス社長と小林マーサモットーロッテホールディングスの最高財務責任者（CFO）兼ロッテキャピタル代表、牛腸栄一日本ロッテ物産代表がそれらである。

これらは昨年、ロッテグループの経営権紛争で辛会長をサポートしており、少なからぬ膜厚影響力を発揮していることが観測される。7日、検察などによると、ロッテグループの秘密資金捜査過程で日本人牛腸代表が注目されている。牛腸の代表はロッテグループ裏金疑惑の震源地とされる日本のロッテ物産代表とロッテホールディングスの主要株主であるみどりの会社の代表を兼務している。



▲佃孝之日本ロッテホールディングス社長。

牛腸代表はロッテホールディングスの

5大株主である役員持株会のメンバーでもある。法曹界の関係者は、「牛腸の代表がロッテグループの秘密資金捜査の核心人物として浮上した」とし「日本のロッテホールディングスと役員持株会なども本格的な検察の捜査線上に上がる可能性が高い」と述べた。牛腸の代表は、特に佃社長や小林代表とは異なり、透過的に日陰で辛会長を助け側近として評価される。彼は昨年6月30日ロッテホールディングス取締役にながったが、これから一月余り後の7月28日「辛格浩総括会長ロッテホールディングス代表取締役解任案」を通過する一助となった。牛腸の代表はロッテ商社の営業本部長を引き受け能力を認め受けたシン・ドンビン会長が率いる「ワンロッテ」を最初に言及した人物として知られている。牛腸の代表と比較して佃社長と小林代表はシンドンジュ前日本ロッテホールディングス副会長が、これら「経営権クーデター」の背後操縦者に名指ししながら早目に注目された人物である。辛元副会長は、昨年「ロッテの経営権争いの本質は、シン・ドンビン監督して津久井近づい設計し小林が脚本。上映を引き受けた経営権クーデター」と言ったことがある。二人は韓国に多く知られていなかったが、売上高90兆ウォンの韓国ロッテグループの運命が、これらの手にかかっているという話まで出てくるほど「実勢中の実勢」と評価される。佃社長は早稲田大学相手の出身で、1968年住友銀行（現三井住友銀行）に入社してのみ32

年を勤めた正統住友マンである。彼は課長級以上の従業員で構成された従業員持株会の決定を事実上牛耳る人物として知られている。



▲小林マーサモーターロッテキャピタル代表。

小林代表はロッテグループの「金庫れる」と通ずる韓国ロッテキャピタル代表と日本ロッテホールディングス CFO 桁までクウェチャゴている。彼はシン・ドンビン会長と一緒に韓日ロッテグループのすべての資金と財務処理の決定権を握ったと伝えられる。業界のある関係者は、「韓国と日本両国ロッテグループの資金の流れと財務状態を小林代表だけ細かく把握している人はいないでしょ」と述べた。専門家たちは、シン・ドンビン会長が父と兄

をクリックして、実質的にロッテグループ総数に上がったために佻社長と小林代表の支持が決定的だったと把握する。一部の日本人のコア 3 人が、いつまで辛会長をサポートするかどう未知数との観測も出ている。これに対して、ロッテグループは、「ロッテグループは一、二人によって左右される企業ではない」と述べた。[ビジネスポスト金在昌記者]

金在昌記者 chang@businesspost.co.kr

<著作権者©ビジネスポスト無断転載を禁じます>